

肺切除後気漏に対する胸腔ドレーン管理 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2019年 4月11日～2021年12月31日

〔研究課題〕 肺切除後気漏に対するドレーン管理法の多施設共同前向き観察研究

〔研究目的〕 原発性肺癌を含む肺内腫瘍性病変に対する肺切除術では術後に切離部より呼吸で吸入した空気が漏出し胸腔内に貯留してしまう可能性があるため、ほぼ全例でこの空気を排出するための胸腔ドレーンという管の留置・管理が必要となります。しかしこの胸腔ドレーンの管理方法がいろいろあるもののいずれが最適かは未だ明らかになっておらず、最も術後管理に望ましい胸腔ドレーン管理法を同定することが目的です。

〔研究意義〕 最も術後管理に望ましい胸腔ドレーン管理法を同定することで術後の胸腔ドレーンの留置期間を最短とし、ひいては入院期間の短縮にまで貢献できると考えます。

〔対象・研究方法〕 研究期間内に肺内腫瘍性病変根治切除術を行った患者様に対しこれまでと変わらない日常診療で行っている胸腔ドレーン管理法で管理を行い、その方法やドレーン抜去までに要した日数などのデータを症例登録票に記載して事務局にデータを集積します。集積データを用いて各ドレーン管理法や術翌日の空気漏れの程度と、術後空気漏れ継続期間・胸腔ドレーン留置期間との関連を統計学的な解析で検討します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院

〔個人情報の取り扱い〕 匿名化を行い、個人が特定できる情報は取り扱いません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者：帝京大学医学部外科学講座 講師 山内良兼

〒173-8606 東京都板橋区加賀 2-11-1

住所： TEL:03 3964 1221 (代表)